

「大造じいさんとガン」の三浦さんが、初レポートターとしてデビューしました。それぞれすばらしい内容の実践報告がなされて、一年間の研鑽と、ここまで支えてこられた各サークルの先輩方の存在の大きさを感じさせられました。

また今年度スタートしたばかりの「特別支援分科会」も、向井さんの意欲的な実践報告によつて充実したものになりました。何もないところからでしたが提案にこぎつけてくださったおかげで、今後「文芸理論や認識論など『文芸研の授業』の特性がよりはつきりと見える報告を」という方向性もみえてきました。

その他すべての入門講座・分科会レポーターの皆さんも、大会を実りあるものにしてくださったことを心よりお礼申し上げます。

運営面では、全国大会実行委員の皆さんが委員長の酒井さんを中心に献身的に活動してくださいました。そのおかげで、トラブルもなく全てにわたつてスムーズに進行したことは、何よりも幸いなことでした。見えないところで尽力してくださった皆さん、本当にありがとうございました。大会終了後も会計関係の残務処理を担つてくださった山本さん、岡崎さん、お世話をになりました。

● これからの課題

今大会の参加者人数は190名。二日間の充実した内容を思えば、ぜひとも200名を突破したかった、というのが本音です。しかし、その現実を踏まえここから課題を明らかにして、来年度へ新たな一步を踏み出しましょう。

ここで考えていきたいのは「オンライン参加どまりで、サークル拡大につながらない「お客様」のような層をどう取り込むか」という問題です。つまり、各地の「国語の教室」などに参加者は増えているのだけれど、オンラインの気軽さで参加する人が多く、なかなかサークル員になつて定着しきれないということなのです。

なんとか文芸研の仲間に迎え入れるところまで、手だてを考え、工夫していくことが求められています。例えば、困ったことを持ち寄つてもらうとか、その人のニーズに合つた学習を組むとか「国語の教室」を継続する中からよいアイデアがうまれたらいいですね。できることからどんどん取り組んでください。そしてそれを交流していきましょう。

● 久々のリアル大会だからこそ

来年度は三年ぶりのリアル開催です。各サークルで山口大会を見据えた活動を始めてください。

久々のリアル大会ですから、オンラインの時とは勝手が違います。参加者にとつても、対面で学ぶこと、とりわけ話し合うことには戸惑いがある、そう考えでおいた方がよいかもしれません。レポートが完成したら、さて分科会をどう進めたらよいか、丁寧に検討をしてください。

なお、どの分科会にも司会者・提案者のほかに文芸研の仲間が加わっていて進んで発言してくれると本当に助かります。そのような立場であれば、ぜひ積極的に発言し、話し合いをリードしてください。

● いつの間にかこんな授業になっていた

— 実践研レポートと比較してみて —

この秋、わたしの勤務校ではこれまでリモートだった教員の相互授業参観が完全復活しました。校内研究、初任者研、二年目研、若年層研…これでもかというぐらい、いろいろありました。（地域によって様々なものがあるようですね）その中には、皆さんがあつと驚くようなものもあつたのではないか。

このところコロナ禍の中、「隣は何をするものぞ」という感じであまり授業を見合うような交流がなかつたからよけい、見てびっくり！どの教科もですが、国語に関して言えば「もうこれ以上、ざつくり読め

ない」と思つていた物語の読み解が、さらに短縮されていてびっくり！「モチモチの木」が3時間で読み終わつてしまつたのでびっくり！「説明文をさつと読み飛ばした後、どうでもいい活動（タブレットを用いて何かを作る）がグレードアップしていくびっくり！作文が、画像だけで短い言葉を添えただけになつていてびっくり！（さらに、授業を見た後のある研究協議では意見を交流するのに、実際に話し合うのではなくタブレットに書き込んで読み合うのです。その意味がわからない…・・・とこれはびっくり通り越してがつくり！）

あなたの学校はどうでしょう。

教員不足も相まって、授業の変質、質の低下に歯止めがかかりません。いつの間にか、周りにそんな授業があふれていなか、見回してみてください。今回、実践研のレポート作成に当たり、文芸研の教材分析・解釈のおもしろさを改めて感じた方もおられたのではないでしようか。

教師自身がまず教材をしっかりと学び、その魅力を感じることなしに、いい授業はできません。そこからしか始まらないのです。実践研で大いに学びいましょう。



全国大会を振り返つて

オンラインだからこそ・・・

千葉文芸研 沼澤賢

【大会前】

20・44

「只今代表者会議中。ご相談です。全体会の司会を沼澤さんにと、いう声があります。もし、受けていただけるのなら適任だと思いますがいかかでしょうか？」

曾根成子

そんなことを考えていました。そして、「いかがでしようか。」という問い合わせに對しては、もちろん断る理由は、あらうはずがありません。むしろ、理由ではなく、体が断ることを拒否したといつてよいでしょう。

もちろん返信は、「お願いします。」と送りました。

—その間約2分

後悔は文字通り後からやつてくるもので、「大丈夫かな。」「できるかな。」と不安が募りはじめました。なにせ、文芸研の運動の中心である全国大会の司会をやるのでですから。失敗は許されません。

「適任」ということはどういうことだろう？自問自答しました。曾根先生からみると「適任」かも知れませんが、自分からみると「適任でない」ということはわかつています。なので、曾根先生から見た「適任」の具体を自分なりにもうもう少し考え、次の考えが浮かんできました。

「関東圏に住んでいる。」「文芸会員である。」「おそらく断らないだろう。」・・・。
でも、ほとんど同時に次のような気持ちもわきあがつてきました。それは、きっと子どもが先生に抱

く気持ちと似ていることだと思います。
「憧れの先生から声をかけられて嬉しい。」「こんな機会またとない。」「自分も全国大会に役立てるかも。」

よう。」と思っていると新着メソセージがありました。

「みなさん承認してくださったので、お願ひします。」（はやつ！！）

「もうやるしかない・・・。

「適任」の理由を自分なりに《選択》しました。「みなさんから期待されている」「役立てる。」きっとそう思っているだろうと前向きに捉え、大会まで開催の準備を進めていきました。

【現地入り】

大会本部は、横浜市にある精華小学校です。昨年度もお世話になりました。今回も快く本部として場所を提供してくださいました。本当にありがとうございます。

当日の横浜の天気は晴れ。体感気温は40度。本部に着く頃には汗だくでした。横浜特有の潮の香りが混じつた「浜風」に吹かれると、よりいつそう体はべたつきます。緊張という気持ちももちろん、自分の体に張り付いたままです。でも、どこか安心する自分もいました。それは本部運営をしているベテランの先生方がいたからに、他なりません。

本部に到着したのは、11：00でした。開始まで時間は2時間です。入室が12：30なのであまり余裕はありませんでした。まずは、パソコンの準

備です。普段行うズームと違つて一つの部屋に複数台のパソコンを使用します。実際やつてみると大変だったのが、ハウリング問題です。複数台のパソコンを近くに置くと、互いに音を拾い合ってしまいます。

「キーン」と音が響いてしまいます。映像と音が主流ですから、ちよつとでもハウリングしてしまうと参加者に対してとても迷惑であり、せっかく楽しみにしていた気持ちもなえてしまいます。何よりも、そんな不手際を出すことは許されません。ですから、準備の中でもそこのところの解決に一番時間をさきました。みんなで知恵を出し合いながらベストに近づけるようにしていきました。機械的なことがクリアされれば、あとは、「流れ」の確認です。といって

も、人の出入りだけなく、スライドをどこで写すのか、どのタイミング話しをするのかなど、対面とはまた違つた小さな課題も出てきました。しかし、繰り返し確認をし、練習することで、解決することができました。言葉には出なかつたものの、「これでいいける」と感じることができました。

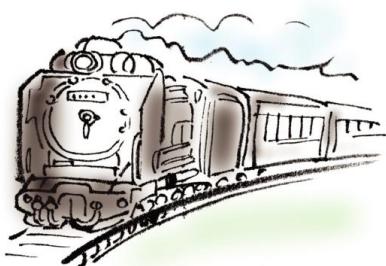
始まつてしまえば、あとの様子は、みなさんが観聴したとおりです。

出だしでハウリングしてまうなど、いろいろありましたが、みんなの協力のもと無事に終えること

がきました。

【最後に】

今回、司会という形で関わらせていただき、また一つ自分自身成長のきっかけをつかむことができました。それは、たくさんの先生方の励ましなどがあったからです。自分は、たまたま、司会というパズルの最後のピースをはめるような役をいただきました。全国大会全体会という大きなパズルの完成には、様々なピースが必要です。その中には、決して描かれていない、いわば余白を埋めたり、柄と柄をつなげる無地のピースもあります。描かれていないピースは、全体を見た時に、その存在がなかなか認識されません。しかし、今回自分は、描かれていないピースの存在が鮮やかに認識にできると共に、描かれていないと思つたピースの重要性に気付くことができました。そして、何よりも大きなトラブルなく終えることができたことに、ほんとうに嬉しく思います。次回の山口大会もがんばりたいと思います。



認識にできると共に、描かれていないと思つたピース

の重要性に気付くことができました。

そして、何よりも

大きなトラブルなく

終えることができたこと

に、ほんとうに嬉しく思

います。次回の山口大会もが

んばりたいと思ひます。

かごしま文芸研ニユース

かごしま文芸研 堀ゆかり

おやつとさあ！かごしま文芸研です。かごしま文芸研は月1回のペースでサークルをしています。最近は来年の山口大会で提案する「走れメロス」を中心に行っています。レポートは数名で分担し、お互いの考えを共有しながらひとまとまりのレポートを作成しています。困難に苦悩しながら乗り越え

文芸研写真館



大会終了後のカフェにて
吾郎先生のオフショット、
これが最初で最後か。

ようとするメロスと中学生を重ねながら読んでいます。が、サークル員も同じようにレポートの産みの苦しみをどう乗り越えようと奮闘しているところです。

今回は8月8日に「かごしま文芸研究会」



について紹介したいと思います。午前は、鹿児島国際大学の千々岩弘一先生に『実感』としての文芸教育の必要性についてお話ししていただきました。内容は、

- (1) 「個人情報」「自己の楽しみ」を公開する短絡的な自己顕示欲・過剰なナルシズムが蔓延
- (2) 「匿名の世界」に逃げ込む「無責任の助長」
- (3) 結果や影響を想像できず、一方的な物言いをする「自律性の弱体化」
- (4) 「現象の表層」しか見ず「現象の深層」を見ようどしない。想像力・洞察力の衰退
- (5) 関係性構築の忌避 など

現在の問題点をあげられ、この「危機」を忌避するためには、文芸作品に「読み浸る」体験を通して、「自己との切実な対峙」「他者との切実な対峙（読みの交流）」「作者の認識（価値観）」を保障する文芸の

授業の工夫が重要であると断言されました。私たちサークル員もこのお話を聞いて元気をもらいました。

午後は、低・中・高学年・中学と4つの分散会で教材分析を行いました。参加者からは、「共体験をいかにさせることができるかで、この教材の価値を高められ、子どもたちの読書を豊かなものにできるかわかりました。題名もさりと通つてしまいますが、どれだけ子どもたちの興味を引き出せることができますか考えることができました。」「教材研究は本当に面白かつたです。恥ずかしながら初めて視点という言葉を知り、発問がなぜかぼやつとしていた理由がわかりました。

こんな授業なら子どもたちも楽しいと思います。言葉の一つ一つを大切にした授業にチャレンジしたいと思いません。」「夏休みに教材研究を一人でしたくなくて、文芸研のみなさんと教材研究したら間違いないと思つて参加しました。参加してよかったです。なぜ『文芸』なのか、作品を通して子どもたちに何を伝えたいのか、今日の話し合いの中で自分の心を持つことができたので、もう一度自分で教材研究をしなおして準備をしつかりして子どもたちに向き合いたいです。また次もお願ひします。」などの感想をいただきました。

また、青年部の学習会や力量研でも「文芸研の学習」と要請されたときは、サークル員が県内のどこにでも出かけ、共に学ぶ活動をしています。

サークル便り その二

自慢してええんちやう？

うちのサークル

枚方サークル 野澤智子

「できるところまでやりましょう。」

「期限が迫つてゐるしね。」

山中尊生さんの言葉にみんなにつこりうなずいています。

10月の土曜の深夜。8時から始まつたサークル会議はもう3時間以上たつています。

枚方サークルは今年に引き続き来年の全国大会でも「海の命」の分科会提案をすることになりました。今年の大会に向けては、ずいぶん前の枚方集会での花岡実践をリメイク？する形で発表することになりました。辻さんたちからも助言いただき、オンラインサークルを繰り返し、なんとか大会に間に合つたのでした。「何とか終わつたあ～」と、ほつとしていたのもつかの間、今度は浅海さんがレポーターとのこと。浅海さんといえば「わらぐつの中の神様」の最後のレポーターです。その後サークルには冬眠状態でした。それでも引き受けてくれ、夏休みの間に

教材解釈を作成したではありませんか！いつでもお尻に火がつかないと取り組めない私としては驚異に値するものです。しかも、自分一人で考えて作成！わお！その上、枚方は東京書籍のため、2学期中に実践をしなければならず、（学級数が多く3学期に回すことができませんでした。）教材解釈を10月には完成し、役員の方々に見てもらつてから12月には実践するということになりました。

それから枚方サークルの奮闘？が始まりました。毎週のようにLINEにあがるレポートをオンラインで検討です。携帯やPCでの画面では見にくいシニア連中は検討するたびに訂正してあがつてくるフアイルをプリントアウトしての参加です。「これ、前のやつやん！」「え？ それ何ページ？」なんて言いながらもなんとか会議に参加。起きているのか寝ているのかわからぬ北村さんと野澤正美も、時々覚醒して意見を言い（笑）。PC画面では今のレポートと前回のレポートを比較して提示してくれる達人。なんとかみんなの力を集結しての会議です。

なかなか対面での会議はできなくても、オンラインという条件を生かせば、時間を気にすることなく（いやいや、気にせなあかんやろ！）話し合えます。時々出てくるボケやツッコミを楽しみながらやつていますが、これも、今までの長い年月の積み重ねが

あつたればこそのことです。最近サークルに入つてくれた神牧さんとは、まだ、ナマで会つたことがないでの、早くナマ神牧を体験？したいものです。

こんなアホなことを言つてはいる私のもとに、浅海さんの実践記録の途中経過がLINEで送られてきました。印刷してトリトリしていきたところのことを思うと、文明の進化の速さに驚いてしまいます。あの頃の苦労はなんやつたんやう！！

ついでに、この時期恒例のやりとりです。

既読 22:44 見ましたよ 😊

私 ロングコートの方がよかつたわ なんならさや香でも 審査員にめっちゃウケてたけど 😊

22:46

僕は、1本目のロングコートダメで度肝抜かれて、2本目は1本目より少し落ちたけど、次どうなるかわくわく感があるネタで好きでした。
さや香も、しゃべくりだけであそこまでその題材を広げるかというのが凄いですね。個人的に

「そんなことより、
枚方は勉強しなさい。」と、西郷先生
に叱られそう。

事務局通信

大雪警報も出るなど、天候も心配ですが、長い二学期も終わり、対面での冬の実践研を開催することができます。ここ3年オンラインでの会議や実践研も多かったです、やはり対面での開催は嬉しいものがあります。オンラインの良さは時間と場所を乗り越えることが出来ますが、対面だからこそできることがたくさんあります。

最近読んだ『オンライン脳』川島隆太著 アスコム社でも「人びとは、いま日本に蔓延するオンラインコミュニケーションのリスクに、あまりにも無自覚で、その悪影響を軽視しすぎている。」「オンラインでは、コミュニケーションになつていない」のです。情報は伝達できるが、感情は「共感」していない。つまり、相手と心がつながっていない、ということを意味します。」オンラインでできることとリスクも理解した上で、今回対面での実践研を実施できることを嬉しく思います。

冬の実践研は、来年の大会レポートの検討と理論学習の場でもあります。皆さんの参加で成り立つてきます。今回、レポーターの皆様事前のレポート作成ありがとうございました。また、各サークルでもお忙しい中、レポートの検討ありがとうございました。

す。私たちが、誰よりも豊かに深く学び、自身を持つ
つて全国の悩める先生方に文芸理論と文芸理論に基
づく実践や子どもたちの変容を伝え、文芸研の運動
がより熱く広がりを見せるものとなるように力を合
わせていきたいと思います。

文芸研の運動を進めていく上でも、今回の冬の実
践研が実り多いものになるように、皆様のご参加ご
協力よろしくお願ひします。今回は、サークル代表者
会議をオンラインでもつなぐことを試していきま
す。どうしても対面では、ご参加できない皆様も是非
ご協力ください。皆様に会えるのを楽しみにして
おります。

★文芸教育、授業シリーズについての呼びかけ・販
売をお願いします。学習会が組織していく中ですが、
サークルでの学習や学校の同僚への紹介など、工夫
して広げていきましょう。「実践研いっただつもりで文
芸教育誌」「職場の机上に文芸教育誌を置いておく」
など様々な方の工夫もお聞きしています。

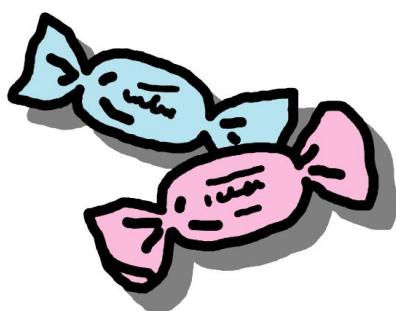
国語の教室を実施する際は、必ず紹介する。文芸
教育誌に興味をもち、書店に問い合わせてもらったり、
新読書社に連絡してもらえる方がいるなら、是非
一言声掛けていきましょう。私たちの一歩が、一
声が運動の柱です。皆様よろしくお願ひします。

★サークル会費納入お願い。まだお済みでないサー
クルは振り込みでの納入をお願いします。ご協力よ
ろしくお願ひします。

今後の予定

(予定が詳しく決まりましたら、随時連絡します。)

6月3日（土）4日（日） 春の実践研（サークル代表者会議で確認）
7月29日（土）30日（日） 全国大会



【事務局員の妄想日記】ある日の学級通信より

昨日、香里園方面に出張で出でていきました。その帰り。もう辺りは暗い。寒い。自然と、足が自販機へと進みました。

どれにしようかなと目をあちこちさせていた時、私はあることに気が付きました。この写真がそれをよく表しています。それに気付いた私は、心の中に何かもやもやしたものが生まれました。さて、この自販機の写真。私は何に気付き、何にもやもやしたのでしょうか。



自販機の「あつたか～い」ばかりを見ていたところ、冷たい方に目を移してみると、おやっ。冷たい方は、「つめた～い」となっています。何か感じませんか。その時の私は、この「つめた～い」にある

違和感を覚えたのです。

まず、ホットドリンクは温かさをより感じるためには、「あたたかい」でも「あつたかい」でもなく、「あつたか～い」と表されているのだと思います。そうすると、冷たいドリンクは「つめたい」としたいところ。しかし、「つめた～い」となっているではありますか。「つめた～い」でいくと、「つめたい」よりもどうしてもあたたかくなってしまいませんか。「う」があると、その言葉を口にしている人の温かさが、にわかにですが入ってしまっているような気がしてしまうのです。

ドリンクの冷たさを表したいはずなのに、なぜ自販機に「つめた～い」としたのだろうと。そのもやもやが、自分の心にあることに気が付きました。

ホットが「あつたか～い」だから、それに合わせて冷たい方も「つめた～い」としているのか。それじゃあ、しっかりと冷たさが伝わらないじゃないか。「つめた～い」とか「冷たい」「冷」「ホールド」などの方が、より冷えた感じがするはずです。冷たさに自信がないのか?いや、ガタンと出でたドリンクを取り出したら夏なら気持ちがいいぐらいに冷えています。

おそらくですが、「あつたか～い」に合わせて「つめた～い」としている。ただ、それだけなのかもし

れません。でも、そんな結末、おもしろくない。無理やりにでも「つめたい」に何か意味はないか、役に立つか立たないのか分からぬこの妄想力で考えてみたいのです。

「つめたい」は、ドリンクの冷たさだけではなく、他の何かを表していると考へると、それは何なのか。それは、そのドリンクを売っている会社、人のあたたかさ、あつたかみのようなものなのかもしません。もし「つめたい」と、ドリンクだけではなく、買う人の心も冷やしてしまいうような、そんな気がします。

「にちりくとうや。にちりくのドリンク、冷えていますよ。どうですか。」

という声が、「つめたい」からではないけど、「つめたい」から聞こえては来ないでしょうか。（訳）